

東京八王子ロータリークラブ創立50周年記念式典

国際ロータリー第2750地区 東京八王子ロータリークラブ

平成21年4月18日（土） 於 京王プラザホテル八王子



お出迎え

入り口でのお出迎え



ご夫人達も並んでお客様をお迎え



市長を囲んで



50 周年式典プログラム

第1部 記念式典 15:00～15:50

- 開会点鐘
- 国歌斉唱
- ロータリーソング「奉仕の理想」
- 物故会員に黙祷
- 来賓紹介
- 会長挨拶
- 実行委員長挨拶
- カバナー祝辞
国際ロータリー第2750地区
ガバナー 新藤 信之様
- 比国青少年育英会バギオ基金への寄付金贈呈

- 東京北ロータリークラブへの記念品贈呈
- ロータリー財団(財)ロータリー米山記念奨学会への寄付金贈呈
- 来賓祝辞 八王子市長 黒須 隆一様
- 八王子市寄付・記念事業目録贈呈
- 歴代会長顕彰(第40代～第49代)
- 20年以上 皆勤出席者顕彰
- クラブ永年貢献者顕彰(20年以上)
- 長寿会員顕彰(80歳以上)
- バナー・シンボルマーク発表
- 閉会点鐘

点鐘



滝島会長による開会の点鐘

ロータリーソング



平田ソングリーダーの熱演

黙祷



物故会員に黙祷



司会は町田会員

■物故会員

(1999年4月22日以降お亡くなりになった会員と元会員)

氏 名	没日	享年	入会年月日
故 白石 寿二殿	2001.4.6	72歳	1967.4.29
故 中桐 善蔵殿	2002.11	61歳	1988.3.3
故 豊泉 吉璋殿	2002.12.11	64歳	1991.7.4
故 宮本 忠夫殿	2004.1.24	59歳	1992.6.4
故 福田 秀夫殿	2004.12.15	77歳	1963.6.1
故 川久保哲男殿	2005.3.28	65歳	1992.4.2
故 小野 長一殿	2005.4.6	96歳	1967.4.20
故 荒井 末男殿	2006.2.2	94歳	1963.4.15
故 中村 正雄殿	2006.4.23	64歳	1987.3.5
故 重久 三行殿	2007.12.3	73歳	1996.5.2
故 金田 品二殿	2008.2.24	98歳	1966.12.15
故 洞口 勝利殿	2008.2.28	62歳	1990.9.6
故 清宮 巖殿	2008.3.14	82歳	1990.9.6
故 関戸新一郎殿	2008.6.5	85歳	1965.1.21
故 内山信次郎殿	2008.8	92歳	1972.2.10
故 廣田卯太郎殿	2008.10.1	91歳	1988.7.8
故 藤森恭一郎殿	2009.2.1	78歳	1999.1.7
故 藤江 豊殿	2009.2.7	72歳	1983.10.20

第2部 記念講演 16:00～17:05

- 講師紹介
- 記念講演 演題「科学技術と教育」
西澤 潤一先生
- 謝辞

第3部 祝賀会 17:30～19:30

- 開会挨拶
- 乾杯
- 八王子ロータリー 50年を振り返る (スライド上映)
- アトラクション
- 閉会の挨拶
- ロータリーソング「手に手つないで」



挨拶・祝辞・贈呈式

矢野実行委員長の挨拶



新藤ガバナーよりご祝辞をいただく



バギオ基金への寄付金の贈呈



東京北ロータリークラブへ記念品贈呈



ロータリー財団への寄付金の贈呈



米山奨学基金への寄付金贈呈



黒須市長よりご祝辞をいただく



八王子市へ寄付・記念事業目録贈呈

顕彰



直近 10 年の歴代会長を顕彰
代表 山田一真 第 40 代会長



クラブ永年貢献者顕彰
代表 47 年皆勤 橋本昭治会員



長寿会員顕彰
代表 87 歳 土屋勝会員

歴代会長(10年)

年度	代数	氏名
1998-1999	第40代	山田 一真
1999-2000	第41代	新井 勝良
2000-2001	第42代	大貫 一
2001-2002	第43代	杉本 當正
2002-2003	第44代	須佐美康治
2003-2004	第45代	重久 三行
2004-2005	第46代	天野 照仁
2005-2006	第47代	池田 恒彦
2006-2007	第48代	松本 啓祐
2007-2008	第49代	宮原 隆夫

クラブ永年貢献者(20年以上)

入会年度(年)	氏名
1960	橋本 昭治
1964	大貫 一
1968	矢野洋四朗
1970	豊崎 益夫
1970	高橋 友昭
1971	土屋 勝
1972	河西 道雄
1973	川名 法人
1975	倉田 和美
1976	平谷敬一郎
1976	相沢 文雄
1978	須佐美康治
1979	新井 勝良
1982	平田 允
1983	西仲 徳次
1984	平 明道
1985	荻島 孝之
1985	田中 祥皖
1985	伊奈 信明
1987	右田 徹
1987	山田 一真
1988	宮原 隆夫
1988	天野 照仁
1989	大用 増造

長寿会員

年齢(歳)	氏名
87	土屋 勝
84	大貫 一
84	相沢 文雄
83	伊奈 信明
81	倉田 和美
81	橋本 昭治
81	豊崎 益夫
80	大用 増造

記念講演

東京八王子ロータリークラブ 創立 50 周年 記念講演

科学技術と教育



首都大学東京名誉学長 西澤潤一先生

1926 年 9 月 12 日生まれ

工学博士 仙台ロータリークラブ 会員

東北大学名誉教授 東北大学総長 岩手県立大学学長を歴任

1974 年 日本学士院賞

1983 年 文化功労者顕彰、ジャック・A・モートン賞

1989 年 文化勲章受章。IOCG ローデイス賞

2000 年 IEEE エジソンメダル受賞

2002 年 勲一等瑞宝章受章

2002 年 西澤先生の業績を記念し IEEE Jun-ichi Nishizawa Medal が設けられた。



西澤先生から、これからの日本の発展と環境の保全に対して、科学技術教育がいかに大切かという、示唆に富んだ御講演をいただいた。



矢野実行委員長夫人千代様より花束の贈呈



50周年記念シンボルマーク・バナーの作成



大蔵会員のデザインコンペについての説明の後
製作者の財部さん、川口さんを表彰

東京八王子ロータリークラブのバナーは宮原会長年度に3代目のバナーの残数が少なくなり、そのまま同じデザインで再び作るか新デザインで作るかが理事会で討議され、翌年度50周年を迎えるにあたり新しいデザインで作成するとの方針が決定されました。市内に多数の大学を有する八王子なので学生から公募したらとの提案があり検討した結果、美術系大学に依頼をするとの方針になり当期の副幹事であった水村会員が各方面にあたり市内の東京造形大学にデザインを依頼することに決定しました。年度が替わって副幹事の大蔵が引き続き継続担当して東京造形大学との産学共同事業で受託研究契約を結びグラフィックデザインの担当の秋田寛教授の指導のもとデザイン専攻の学生の方々とデザインコンペを行いました。多数のデザインが応募され、クラブ例会で出席したロータリアンの投票で決定されることになり、フェアで楽しい雰囲気の中それぞれ気に入ったデザインに投票を行い各第一位のデザインが決定されました。

バナーデザインは財部^{たからべいこ}礼子さんで滝島年度の八王子ロータリークラブのテーマである、「22世紀へ、夢をかたちに、気持ちを行動に」という言葉から、未来へ向けて飛躍していくことをイメージして、八王子の市の鳥であるオオルリが空へはばたく姿をデザインしたとのことです。

50周年の記念ロゴは川口貴子さんです、八王子ロータリークラブの50周年記念ロゴマークということで、50という数字を大きくモチーフとして使用しました。カラーはロータリークラブの歯車に合わせ、ロイヤル・ブルーとイエローで統一し、50という数字は孤を描くようにして繋がっており、全体で円を描いています。この大きな円は、人と人との繋がる輪・世界に広がるロータリークラブの輪・八王子ロータリークラブが未来に広げていく輪・様々な輪をイメージしています。50周年という記念すべきこの年から、さらにたくさんの素敵な輪が広がっていくことを願っているとのデザインです。

バナーは50周年記念式典には会員すべてに配られ、また50周年記念ロゴは各種印刷物やホームページ、記念品等に使用されました。

記念式典の当日にデザインされたお二人を記念式典にご招待し、表彰をさせていただきました。

大蔵健司

祝賀会



滝島会長による開会の挨拶



司会は児玉会員



杉本ガスパールカサド国際チェロコンクール
実行委員会副会長の挨拶



乾杯の御発声は松原治パストガバナー





認証状と系図

50周年に寄せて

式典と記念事業

50年間の歩み

50年間の活動

記念座談会

会員紹介

資料編



祝賀会メニュー

閉会挨拶



天野副実行委員長による閉会の挨拶



合唱



輪になって「手に手つないで」を大合唱

RI 第 2750 地区 東京八王子ロータリークラブ 2009 年 4 月 18 日 於 京王プラザホテル八王子



東京八王子ロータリークラブ創立 50 周年記念事業

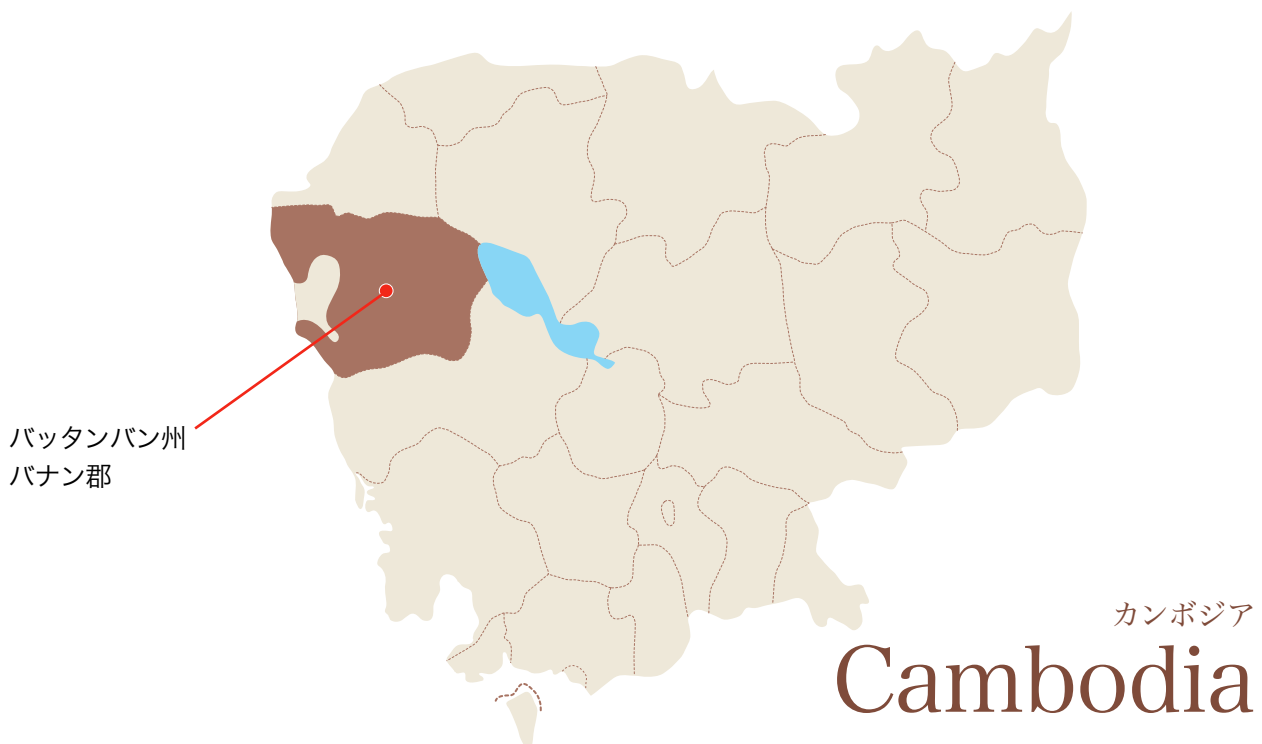
カンボジア王国バットアンバン州バナナ郡
村落開発フォローアップ・プロジェクト

1. 概要

実施地域	■カンボジア王国バットアンバン州バナナ郡チャンミエンチャイ地域 ドーン村、チャンホー・スヴァイ村
実施期間	■2008年5月～11月
対象グループ	■ドーン村の住民組織（73 家族） ■チャンホー・スヴァイ村の住民組織（63 家族）
受益者数	■ドーン村の住民組織メンバー（73 家族） ■チャンホー・スヴァイ村の住民組織メンバー（63 家族） ■チャンミエンチャイ村の小学 1、2 年生 204 名、3 年生 84 名
事業の目標	■対象地域の住民組織メンバーの収入向上と貧困削減。 ■チャンホー・スヴァイ村の全ての就学適齢児童が初等教育を受けられる。
事業の内容	■トラクター 2 台×2 村の住民組織（合計 4 台）の提供 ■水汲み用ポンプ 1 台×2 村の住民組織（合計 2 台）の提供 ■チャンミエンチャイ小学校の児童への文房具提供。

2. 対象地域の背景

カンボジア北西部バットアンバン州は、1990 年代後半まで戦闘の続いた地域であり、地雷も多く埋設されたことから、カンボジアのなかでも発展の遅れている地域です。現在では、地雷撤去が進み生活圏の地雷はほぼ撤去されたものの、すぐ隣の村ではいまだ撤去活動が続けられており、また森の中には地雷が残っている可能性もあります。このような事情もあり、これら 2 村には地雷被害者、内戦時に負傷した障害者、難民キャンプからの帰還者などの最貧困層が多く生活しており、電気、道路、水道などのインフラ整備も遅れています。



①記念事業の実施

●トラクターの寄贈およびレンタル制度

ドーン村、チャンホー・スヴァイ村それぞれにトラクター 2 台ずつを寄贈しました。寄贈したトラクターは、住民組織住民組織のレンタル制度により、メンバーに貸し出されます。レンタル料は、メンバー間の話し合いにより 1 ヘクタールあたり 25 ドルとしました。このレンタル料には、住民組織が雇用したドライバーの給与、ガソリン代、メンテナンス費用が含まれます。レンタル料は、月末に銀行で支払うことになっており、厳正に取り扱われます。



トラクターを囲んで村の人たちと
滝島会長、佐藤幹事、鈴木式典委員長、天野副実行委員長



寄贈したトラクターにはロータリーマークがついています。



寄贈したトラクターの 1 台



さっそく活躍中のトラクター



村の人々によって利用され、復興に役立っています。





トラクターと子供たち
トラクターは色々な形で活躍しています。

●水汲み用ポンプの寄贈およびレンタル制度

ドーン村およびチャンホー・スヴァイ村に1台ずつ水汲み用ポンプを寄贈しました。これは、農作用の水を川やため池からくみ上げるために使用されます。このポンプも住民組織によるレンタル制度により、住民組織のメンバーに貸し出されます。



水汲みポンプ



ポンプの水が農地を潤します。

●文具の寄贈

えんぴつ:501本、ボールペン:114本、えんぴつ削り:18個、カラーペン:40本、定規:22本、コンパス:7個、消しゴム:46個、折り紙:7セット、折り紙の本:2冊を奨学制度のあるチャンホー・スヴァイ村の住民組織に寄贈しました。



天野副実行委員長より文具の寄贈



佐藤幹事の折り紙実演講座

②記念事業の評価

●事業の妥当性

カンボジアは、2000 年に入り大幅な治安回復と政局が安定を果たしたものの、最貧国の一つと位置づけられています。国連のミレニアム開発目標（MDGs）をもとにカンボジア政府もカンボジア・ミレニアム開発目標を設定し、政策を実施してきました。今回のプロジェクト対象地域であるバナン郡チャンミエンチャイ地域の2つの村は、内戦中の激戦地であったこともあり、住民のほとんどが貧困層です。住民の多くは農民であり、トラクターや水汲み用ポンプの提供は、彼らの収入を向上させ貧困を削減することができます。

また、チャンホー・スヴァイ村の奨学制度による20人の奨学生への文具の提供およびチャンメンチャイの小学校への文具の提供は、初等教育の充実というカンボジア政府の目標とも整合性があります。

●事業の有効性

対象となる2つの村の住民のほとんどは貧困層の農民であり、オレンジ、米、とうもろこし、野菜を栽培しています。各農民は平均で2ヘクタールの土地を有していますが、農業のための資金が不足し、マイクロクレジット制度から資金調達しています。しかし、それだけでは不十分であるため月7～12%の高利で借入しなければならず、これが生活を圧迫しています。

また、田畑を耕し、収穫物を運搬するためのトラクターはかなり裕福な住民しか所有しておらず、貧困層はこれらの所有者から1ヘクタールあたり50ドルで借用しなければなりません。また、水汲み用ポンプも同様に裕福な住民から借用しなければなりません。

このような状況下でトラクターや水汲み用ポンプを住民組織に提供することで、これらの機材を安く利用することができれば、農作業にかかる費用を削減でき、結果として各家庭の所得が向上すると考えられます。また水汲み用ポンプは、雨量のばらつきが大きいカンボジア特有の天候下でも、ある程度安定した収穫量を期待することができますので、ほとんどが農民であるこれらの村の貧困層の生活安定に寄与する事ができます。



（上）小学校の授業風景 （下）チャンメンチャイ小学校の子供たち



この事業に対してガバナーより協同プロジェクト最高賞をいただきました。

以上の事業は 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス カンボジア事業に協力して行われました。

東京八王子ロータリークラブ創立 50 周年記念事業

八王子サイエンスドームへの映像システムの寄贈

概要

東京八王子ロータリークラブは、創立 50 周年記念事業の一つとして、八王子サイエンスドームへ映像システムを寄贈しました。

子供たちが画面の前に立つと、カメラが自動的に顔を認識し、宇宙飛行士やパイロット、キャビンアテンダントなどに変身できる映像システムです。子供たちに新鮮な驚きや楽しさを感じさせ、科学に興味を持ってもらうことを期待しています。

この事業は、平谷委員長をはじめとするチャリティー事業委員会が担当しました。

八王子サイエンスドーム



説明文



寄贈プレート



今回の寄贈機器一式。サイエンスドーム 2 階に展示されています。

寄贈式

寄贈式は、平成 21 年 4 月 11 日に、八王子サイエンスドームで行われました。



八王子サイエンスドームの斉藤館長を中心に、滝島会長、天野実行副委員長、平谷チャリティー事業委員会委員長と平田、豊泉副委員長



斉藤館長から説明を受ける。



八王子ロータリークラブの宇宙飛行士トリオこれから宇宙へ出発です。

東京八王子ロータリークラブ創立 50 周年事業実行委員会

「創立 50 周年を契機として八王子ロータリークラブの輝かしい未来を築くため親睦と奉仕に邁進しよう」

創立 50 周年事業実行委員会は、平成 18 年 8 月 3 日に正副委員長組織表が承認され、平成 19 年 3 月 8 日にメンバー配属も決定。各々の委員会が担当の記念事業を行った。

■50周年記念事業

1. カンボジア王国バットバン州バナナ郡村落開発フォローアップ・プロジェクト … 記念事業委員会
2. 八王子サイエンスドームへ映像システムを寄付 …………… チャリティー事業委員会
3. 八王子市若きチェリスト育成基金への寄付 …………… チャリティー事業委員会
4. ロータリー財団への寄付
5. (財)ロータリー米山記念奨学会への寄付
6. 比国青少年育英会バギオ基金への寄付
7. 50周年記念シンボルマーク・バナーの作成
8. 記念誌作成 …………… 記念誌委員会
9. ロータリー旗作成
10. 記念式典の開催 …………… 登録委員会、式典委員会

■組織表

委員長	矢野洋四朗	顧問	橋本 昭治	山田 一真
			土屋 勝	新井 勝良
副委員長	天野 照仁		豊崎 益夫	大貫 一
			河西 道雄	杉本 當正
幹事	滝島 克明		高橋 友昭	須佐美康治
			川名 法人	池田 恒彦
副幹事	真上 俊樹		平谷敬一郎	松本 啓祐
	青木 訓行		平田 允	宮原 隆夫
	水村 京二		右田 徹	



委員会名	財務委員会	登録委員会	式典委員会	記念事業委員会	記念誌委員会	チャリティー事業委員会	会計監査
委員長	滝島 克明	高橋 友昭	鈴木 孝	佐藤 雅章	土屋 隆	平谷敬一郎	杉本 當正
副委員長	青木 訓行 真上 俊樹 水村 京二	川名 法人 池田 恒彦 中川淳之助	松崎 栄一 小笠原 治 大蔵 健司	山田 芳通 松本 啓祐 堀 博昭	中村 千晶 堤 吉久 小坂 優	相沢 文雄 平田 允 豊泉 皖嗣 斎田 允	平 明道
委員	川又 和世 高橋 邦名	倉田 和美 田中 祥暁 右田 徹 関田 榮治 望月 大介	西仲 徳次 伊奈 信明 菊池 信彦 田辺 茂 児玉 昭彦 伊藤 孝昭 外村 定彌	新井 勝良 大用 増造 町田 稔 加藤 栄一 猪鼻 正純 菱山 旻雄 関根 太	須佐美康治 荻島 孝之 山田 一真 宮原 隆夫 井上 恵司	山本 彰 小林 博史 鈴木 國夫	